

北京オリンピックへの抱負を語る

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報2

ナショナルチーム8名が 満を持して石垣島に集結

4月14日(土)、沖縄県石垣市の大濱信泉記念館で、翌15日(日)に開催されるNTTトライアスロンジャパンカップ・ITUトライアスロンワールドカップ石垣島大会に向け、日本ナショナルチーム8名の選手による記者発表が行われた。司会 は山本光宏JTU事業広報委員会副委員長。

まずは、オフィシャルトップスポンサーであるNTT西日本の松本順一総務部広報室広報室長から日本ナショナルチームへの期待と希望、メディアへのお願いなどが話された。続いて戦いを翌日に控えた8名から石垣島大会、そして今年のレースから北京オリンピックにかける意



日本ナショナルチーム記者会見に出席したのは、山本光宏JTU広報委員、庭田、関根田山、中西、古谷、上田、高木、山本良介の各選手に、松本NTT西日本総務部広報室長、飯島JTU強化本部長代理、山根同強化本部長代理

庭田清美

(アシックス・ザバス)



今年も自分のパフォーマンスと実力を高めて、上を見て、前を見て、努力をしていだけ。明日の大会では直感を大事にして、全力で臨みたい。その結果が成績につながると思う。石垣島の方々の応援を自分のエネルギーに変えて、レースを進めていきたい。

関根明子

(NTT東日本・NTT西日本)



今年は2戦目なのに、なぜか島に来る3日くらい前から緊張が止まらなかった。だけど今日、ようやく落ち着くことができたし、石垣島大会は大好きなので積極的なレース展開をしていきたいと思う。今シーズンの大きな目標は、日本人初のワールドカップ優勝。

中西真知子

(NTT東日本・NTT西日本)



北京の1年前ということもあり、今年のワールドカップには毎大会、世界中から数多くの強豪選手が出場することになると思う。そのなかで自分らしい戦いができるように目指す。一つひとつ一歩一歩、常に挑戦していき、北京につながるレースを重ねていきたい。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



北京オリンピックへの抱負を語る

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報2

気込みと抱負が語られたあと、記者から選手たちへの質問が行われた。

昨日のITUワールドカップ記者発表で、前回、前々回のこの大会の覇者であるカートニー・アトキンソン（オーストラリア）が「自分のランは、技で走っている」と語ったことを受け、田山寛豪（チームテイケイ）、山本良介（トヨタ車体）の男子選手2名に「ランにかける意気込み」が尋ねられた。田山は「世界のトップ選手の領域に到達することは難しいが、今年は自分もランで世界に負けない『技』を身に付ける」、山本は「明日は80名近くの選手が出場するので、どんな展開になるのかはまだ分からないが、どんな状況でも自分らしいレースをしてきたい」と話した。

トレーニング中の故障から去年は思う



挨拶に立つ松本順一-NTT西日本総務部広報室広報室長



司会は山本光宏JTU広報委員



飯島健二郎JTU強化本部長代理(左)と山根英紀同強化本部長代理

上田 藍

(シャクリン・グリーンタワー・稲毛インター)



来年の北京オリンピックを目標としている選手が大勢いるので、今回の大会では皆、気持ちが高まっていると思う。そのなかで、いまの自分がどこまで勝負できるかを確認したい。自分の力不足を感じることもあるかもしれないが、それも成長へつなげたい。

高木 美里

(湘南ベルマーレ)



昨年ナショナルチームに入った直後に鎖骨を骨折し、そのため昨年の冬までまったく練習をすることができなかった。ムールラバ大会での結果が今回につながり、いまは参戦できることへの感謝の気持ちが大きい。明日は持ち味であるバイクを生かして勝負したい。

古谷 あかね

(トヨタ車体)



今回、ナショナルチームに選ばれて光栄に思う。明日の大会では日本を代表する選手として恥ずかしくない、積極的なレース展開をしていきたい。そのために、まず得意なスイムから実力を出し切り、そのままランにつなげることができるよう頑張りたい。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



北京オリンピックへの抱負を語る

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報2

ような結果が出せなかったと言ったのは中西真知子(NTT西日本・NTT東日本)。「今年のオフは、これまでの経験を生かして万全の調整」と、胸を張った。オーストラリアのゴールドコーストを拠点とし、世界でも実力を発揮し続けている庭田清美(アシックス・ザバス)からは、「積極的なレース展開を目指す」「海外の選手はよりタフな環境でも苦にせず、自分を鍛えている。日本の若手にも、もっと育ててほしい」と、ベテランらしいコメントがあった。

今回で12回目を数える石垣島でのITUワールドカップ。日本のトライアスロンは、毎年この大会から本格的なシーズンを迎える。

世界33カ国からトップクラスの選手が参戦し、強豪トライアスリートたちがメダルを競う本大会だが、好成績を残す日本選手が多いことも過去のリザルトが証明している。今年こそ、男女ともに表彰台の中央に立つことを期待したい。

明日15日(日)、ITUワールドカップ女子が午後1時、男子が午後3時45分からのスタートとなる。また、同時開催の2007石垣島トライアスロン大会も午前8時にスタートする。

田山 寛豪

(チームテイケイ)



今年、ナショナルチームとして出場する一戦一戦で、北京につながられるような勝負をしていきたいと思う。そのためには最後まであきらめず、粘りのあるレース展開を目指したい。常に100%の力を出し切れるよう、まずは明日のレースを頑張りたい。



明日はいよいよ世界の強豪と戦う日本ナショナルチームの8名。ほかの7名の日本選手と力を合わせ北京への足がかりを得ることができるか

山本 良介

(トヨタ車体)



昨年の石垣島大会の成績が良く、ナショナルチームに入ることができた。今年は良い練習ができ、前回のムール・ラバ大会でも良い結果が出せたが、いまはそれ以上に調子が良い。明日の石垣島大会では、練習したことをすべて出し切り、表彰台を目指したい

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



NTT東日本



NTT西日本

